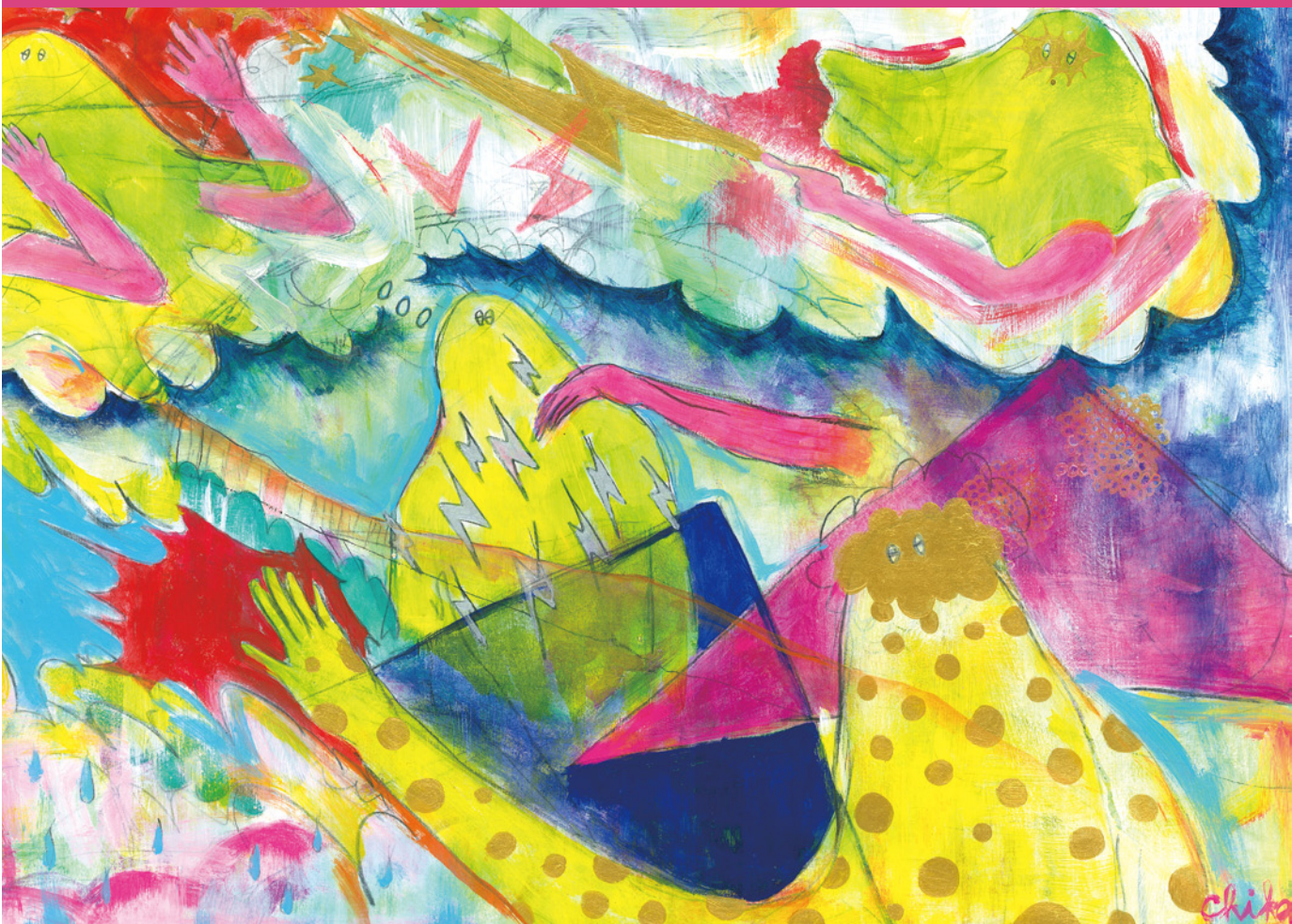


アート、みつけよう！福岡のアート情報誌 [wa]

VOL. 63
2014
AUTUMN



特集

福岡 秋のアートイベントガイド

Inspiring Talk

古場治 × 望月未和



COVER ARTIST

白川千佳 Shirakawa Chika

PROFILE////////////////////////////////////

1984年大分県生まれ。福岡デザイン専門学校卒業。「どこか変であること」「見てくれる人が楽しくなるように」をモットーに絵画・イラスト・グッズの制作を行う。謎のキャラクターと幾重にも重ねたカラフルな色彩・自由な線が特徴。個展やアートイベントなどで活動中。

Q 「どこか変」な絵を描くのはなぜ？

私はちょっと変な絵を描くことでまず自分が楽しい気分になるのですが、作品を見てくれる方も同じように楽しいと感じて笑ってくれると嬉しいなと思っています。

Q 作品のインスピレーションはどこから？

深く考えずに自分の気持ちに従って手を動かし始めると、キャラクターや動きのイメージが出てきます。日常生活のなかで友人との会話や見たものからヒントを得ることもあります。

Q 色鮮やかな作風に影響を与えた体験は？

専門学校時代に「たくさんの色を重ねていって、いったん消してまた重ねる…」と繰り返す技法を習ったことが今の作風につながりました。また、旅行でメキシコに1ヶ月間滞在したときに見た、まちなかや現地の人々の衣装などの色使いにも刺激を受けました。

Q これからどんな活動をしていきたい？

昨年「天神ラボ」に参加して活動範囲が広がりました。これからも多くの方たちに作品を見てもらえるように、地道に絵を描いていきたいです。



メキシコで見た「ガイコツ祭り」に発想を得た作品。



プロレスラーのバッジ。他にもグッズ多数。

イベント情報

天神ラボ2014

9月12日(金)~23日(火・祝) 福岡パルコ

*白川さんは館内でのグッズや絵の展示販売、ライブペイント(9/23)を行います。詳細はP4を参照。



VOL.63 AUTUMN

CONTENTS

02 COVER ARTIST

白川千佳

03 特集

この秋、福岡のまちはアートで熱い！
福岡 秋のアートイベントガイド

04 アートを楽しむまち歩き

まちなかアートイベント

06 Inspiring Talk

古場治×望月未和

08 Pick up Artists

柿川健太
中原未央
田中千智
チョン・アルム
よしながこうたく
オーギカナエ

10 ART EVENT CLIPS

<コラム> 福岡ギャラリーさんぽ
Gallery MORUYA

<コラム> おしゃべりな学芸員
福岡市美術館

読者プレゼント

13 セリフからはじめる演劇の話

「世界って、たったふたつの、
直径2センチとか3センチとかの、
薄っぺらい膜でできてたんだな」
川津羊太郎

14 FFAC INFORMATION

PICK UP GOODS 「FT5公式グッズ」

この秋、福岡のまちは、アートで熱い!



福岡 秋の

アート イベント ガイド

この秋、福岡では見逃せないアートイベントが続々開催されます。
日差しがやわらかこの季節、まち歩きを楽しみながら、気軽にアートにふれてみませんか。
“コンパクトシティ”といわれる福岡なら、全制覇も夢ではないかも!?



福岡県立美術館

天神ラボ 2014

9/12 ~ 23

福岡パルコ

第5回
福岡アジア美術
トリエンナーレ
2014

9/6 ~ 11/30

福岡アジア美術館ほか

NAKASU
KAWABATA

イムズ

福岡市博物館

DAIMYO
ART ACTION 2014

11/8

第51回
福岡市民芸術祭

9/28 ~ 12/7

福岡市内
*P14参照

アジアフォーカス
福岡国際映画祭 2014

9/12 ~ 21

TENJIN



OHORI

福岡市美術館

KEYAKI
STREET

第2回
天神アート
ビエンナーレ

9/2 ~ 10/12

天神・新天町

HAKATA

FUKUOKA ARTWALK
「アートをたずねる月」
2014

10/1 ~ 31

けやき通りほか

はかた駅前通り
景観社会実験

11月中旬~下旬



まちなかアートイベント

アートを楽しむ まち歩き

まちなかで気軽にアートにふれ、楽しめるイベントを一挙にご紹介！

illustrations by Tomoko Kaneko



【1】昨年開催の様子 【2】アート部門で参加作家の吉村ちゃーこの作品 【3】パフォーマンス部門で参加作家のだーのダンス

問 福岡パルコ TEL : 092-235-7000(代表)
<http://fukuoka.parco.jp/web/tenjinlabo/>

天神ラボ2014

▶日時 9月12日(金)～23日(火・祝) 10:00～20:30
 ▶場所 福岡パルコ

12日間、パルコがアートであふれる

昨年盛況だった「天神ラボ」。第3回目の今年はさらにパワーアップ！一般公募とパルコ選抜枠で選出された、九州の若手クリエイターたちが17組登場します。パルコ全館がギャラリーとなり、アートやファッションなどの作品が展示されるほか、ライブイベントなどのパフォーマンスもあります。気に入ったアーティストの作品やグッズを購入することができるのは、ファッションの発信地パルコならではの。アートを日常生活に取り入れて楽しめま

ここに注目！

- 展示作品をパルコ直営セレクトショップ「ワンスアマンズ」(1F)で買える。
- テナントのブランド「Manhattan Portage」「ワンピースとタイツ」とアーティストのコラボ商品が登場。
- 3基のエレベーター内をアート作品でラッピング！



第9回福岡文化連盟祭り

第2回天神アートビエンナーレ

▶日時 9月2日(火)～10月12日(日)
 ▶場所 天神周辺のギャラリー、エルガーラホールほか

若手アーティスト作品を多数展示

さまざまなジャンルの文化人やアーティストを擁する福岡文化連盟。今年は「BIG BANG 今、ここに！」をテーマに、約1ヶ月半にわたり福岡のアーティストや市民が熱く刺激し合う芸術の祭りを開催します。特別展「新世代アートフロンティア」では、西日本の実力派若手アーティストの作品を選抜し、一堂に展示します。この機会に、現代美術や現代工芸など新しい分野のアートにもふれてみては。

問 福岡文化連盟 TEL : 092-771-0188
<http://www.fukuokabunren.jp/>

ここに注目！

- 天神エリア各所で、展覧会やイベントがリレー形式に開催されます。
 - 9/2(火)～7(日) 「ファインアート」 村岡屋ギャラリー(092-711-1187)
 - 9/9(火)～14(日) 「福岡―釜山交流美術展」 ギャラリートミナガ(092-714-5109)
 - 9/23(火・祝)～28(日)「愛・和のビッグバン」(書道) ギャラリー風(092-711-1510)
 - 10/6(月)～12(日) 「こんにちは、天神さま～100のアートと100の声」 ギャラリー風(092-711-1510)
 - 9/30(火)～10/5(日) 「手技のこころ」(手芸) ひよ子ギャラリー天神(092-561-7145)
 - 10/7(火)～12(日) 「黒田家ゆかり～博多織、博多人形、高取焼」 ひよ子ギャラリー天神(092-561-7145)
 - 10/7(火)～12(日) 「写真家10のアンクル」 ギャラリーおいし(092-721-6013)
 - 10/8(水)～12(日) 「新世代アートフロンティア」 エルガーラホール、ギャラリー(092-711-5017)
 - 10/8(水)～12(日) 「天神文化」 エルガーラギャラリー、中ホール(092-711-5017)
 - 10/8(水)～12(日) 「秋色讃華」(華道) エルガーラ中ホール(092-711-5017)

【特別共催】

9/16(火)～21(日) 「アイルランドの石の美術 拓本展」 アクロス福岡交流ギャラリー(092-725-9111)
 ※開催時間などは各施設にご確認ください。



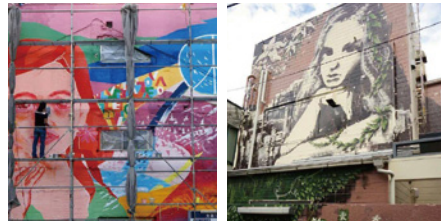
Tomoko

DAIMYO ART ACTION 2014

▶日時 11月8日(土)
▶場所 福岡市中央区大名1丁目・2丁目

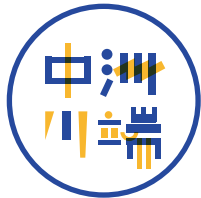
まちの壁がキャンパスに!

最先端のトレンドと歴史的な文化が混じり合うまち「大名」。近年空き店舗が増え、人通りが減って落書きが散見されるようになりました。そこで、代わりに廃アパートやビルの外壁にアーティストによる絵を描いて、大名をアートのまちとして活性化していこうと始まったまちづくりプロジェクト。今年は、11月8日に、完成したウォールアートを市民の方々に披露するイベントを開催します。



昨年開催の様子

問 大名アートアクション実行委員会 TEL: 092-406-6710
<https://ja-jp.facebook.com/daimyo.art.action>



第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014

▶日時 9月6日(土)～11月30日(日)
▶場所 福岡アジア美術館ほか

アジア最新アートの祭典

アジア21ヶ国・地域の最新アートを紹介する3年に一度の展覧会。今回のテーマは「未来世界のパノラマーほころび時代のなかへ」。現実世界の無数の「ほころび(破綻)」を、アーティストたちの鋭い問題意識と自由な想像力を通じて見つけ、私たちに未来世界の「ほころび(誕生)」を感じさせてくれます。参加作家は、日本初紹介の作家を中心に、46組の新進作家で構成され、映像、デザイン、メディア・アートなどの領域を積極的に取り込んでいます。



問 福岡アジア美術館 TEL: 092-263-1100
<http://fukuokatriennale.ajibi.jp/>



[1] アニッダ・ユウ・アリ(仏教虫一学食) 2013 [2] 特別展「モンゴル画の新时代」よりオノンジン・ウルクジハンド(父の不在) 2011

ここに注目!

- 招聘作家による交流プログラムで作家とふれあえる!
- 特別部門「モンゴル画の新时代—伝統から現代へ」を同時開催。過去5年間でめざましい発展をした地域・ジャンルを紹介する企画として、伝統的な技術を用いながら現代的・都市的な主題によって大きく変容しつつあるモンゴル画を10人の若手作家の作品で紹介!

はかたスマイルプロジェクト

はかた駅前通り景観社会実験

▶日時 11月中旬～下旬(予定)
▶場所 はかた駅前通り

子どもと見ても楽しい

博多駅からキャナルシティ博多へつながるはかた駅前通りを“歩いて楽しい”通りにしようと始まったプロジェクト。今年は景観社会実験として、植栽帯にアート作品を展示します。この地域に古墳があり、ハニワも出土したという史実をもとに、ハニワキャラクターをワークショップで制作し(8月に実施済)、鉄製のオブジェに仕上げ展示します。アーティストは、久留米市在住の絵画作家、オーギカナエさん(詳細はP9へ)。



展示イメージ



ワークショップ開催の様子

問 博多まちづくり推進協議会 駅前通りプロジェクト
(福岡地所株式会社開発事業本部内)
TEL: 092-272-5578(担当 一柳・西村)
ART BASE 88 TEL: 092-986-4888(担当 宮本)

アジアフォーカス

福岡国際映画祭 2014

▶日時 9月12日(金)～21日(日)
▶場所 キャナルシティ博多(ユナイテッド・シネマキャナルシティ13)ほか

ハリウッドとは違う映画の魅力を感じて

トルコ、インド、中国、台湾など、18ヶ国・地域約39作品の公式作品のほか、協賛企画上映を合わせて200作品以上を上映します。普段なかなか観るチャンスのない作品を通じて、近くて遠いアジアのいまを感じ取れます。トークやシンポジウム、観客の投票で決まる観客賞の授賞式など、参加型のイベントも多数開催(一部は応募制)。



慶州/2014/韓国

ここに注目!

- 期間中、上映作品の監督や出演者などゲストが多数来博予定!
- 「台湾映画大特集」を開催。新作(2作品)と旧作をおりまぜて上映します。
- イチオシの作品はこれ!
「ブラインド・マッサージ」中国・フランス(2014年)監督:ロウ・イエ
中国のどある盲人マッサージ店を舞台に繰り広げられる人間模様を、中国第6世代を代表するロウ・イエ監督が圧倒的な映像力で描く。暗闇の中で生きる彼らの愛、嫉妬、苦しみ…。生きることの悲しさが胸に迫る。

問 福岡国際映画祭インフォメーション
TEL: 080-8360-5702(毎日 10:00～17:00)
<http://www.focus-on-asia.com/>



Inspiring Talk

(株)イムズ営業統括部

古場治



福岡地所 (株) 社長室広報

望月未和



創業時の目的は
豊かなまちづくり

▼古場 オープン当初から、イムズは天神の市民ギャラリー的な役割を持つ文化施設を目指していたので、現代美術や音楽、演劇など、アートジャンルに対しての「コト起こし」をやっていたという意識は強かったですね。公募展などを通じて若い才能の発掘や、地方から中央へ発信する取り組みをしていました。チャンネルシティ博多では創業時どんな目的があったんですか？

▼望月 チャンネルシティ博多は、福岡市の市街地再開発事業で、旧博多部、いわゆる商都博多の復興を使命としていました。博多駅と天神の間地点に、この2点をつなぐ新たなポイントを作る。そうすれば福岡のまちの魅力を点から面に広げられるんじゃないかという思いがありましたね。

▼古場 そうなんです。当時は西武百貨店やバルコなどの商業施設がカルチャーシーンの担い手として存在感を発揮していたこともあり、「モノを売るビル」という役割を超えて情報発信していきたいという思いはどこにもありませんでしたね。

▼望月 チャンネルシティでは、福岡のまちから日本で初めて本格的な複合施設を、シネコンを、ユニークな建築デザインを発信しようという意気込みで笑。イベントも商空間で本格的なエンターテインメントを見てもらおう、そうして来場者の方に楽しんで過ごしてもらおう、という発想でした。チャンネルシティより7年前に開業されたイムズさんは、いち早くこの意識をお持ちだったように思います。

▼古場 買物が目的のお客様もたくさんいらっしゃいますが、そういう方々に対して、買物以外の面白さや驚きを提供しているという方針でしたし、それは今もずっと続いています。福岡出身のア티ストや、九州のさまざまなものづくりを伝えることなどにも積極的に取り組んできました。

▼望月 その時代時代で心の琴線にふれるコンテンツを提供されていますよね。

▼古場 ただ、創業時と今ではお客様のニーズも変わってきましたよ

福岡のまちのアートを語ろう

Text by Aya Tsutsui

ね。ネットやSNSなど、お客様の情報ソースが増えたことによる影響も大きいかもしれない。もう地方から中央へという時代ではないです。

▼望月 以前斬新だったものでも、現在のお客様はそれがあるのが当たり前前に育った世代です。価値観もコミュニケーション手段も変化していますので、発信の仕方や中は変わらざるをえませんよね。

▼古場 アートイベントにしても、ハコ(空間)の大小や立地の良し悪しで優位性が量られるのではなく、個人がそれぞれに情報を得て、興味のある場所に集まり、それらがつながってムーブメントになっていく時代なのかなと感じています。

施設間の垣根を越えて、魅力あるまちにしたい

▼望月 それはエンターテインメントも同じですね。企業や団体が発信したことに人が追随するスタイルから、人々が楽しむきっかけや場を提供するという方向に変化しています。イベントもワークショップなど参加型が増えてきました。福岡のまちにあると楽しいコンテンツを、という思いで試行錯誤を繰り返しています。古場さんは、福岡に必要なものについて考えることはありませんか。

▼古場 いつも思うのは、イムズやキャナルシティも含めて商業施設がそれぞれに色んなイベントをやっていますけど、それらがつながってまちの大きな魅力になっていくという感じがもう少し必要ですよ。福岡の商業地図は「博多VS天神」の構図で語られがちですが、もっと垣根を越えられるといいのにつて。

▼望月 そうですね。まち全体でイベントをやるなど、施設や店舗に縛られずに外部とのつながりをもっと強くすることは課題のひとつです。施設がまちとつながりを持てば、まち全体の魅力向上につながるのだろうと思いますね。

▼古場 例えば別府や瀬戸内など、各地でアートツーリズムが盛んですが、都会から遠く離れた不便な場所でも、仕組みと魅力的なコンテンツがあって、受け入れ態勢がちゃんとすれば、集客力の高いイベントになりますよね。福岡も、官民間問わず、まち全体でやれることがまだまだあると思います。

人とつながることから始める、大きなまちづくり

▼望月 会社としては、ここに来て、エンターテインメント性の強化について改めて考えているところです。それが水を使ったイベントなの

古場治

平成7年(株)イムズ入社。イムズのビルオーナーでもある三菱地所への出向経験等を経て現職。広告展開・販促イベントの企画立案、広報、ホール運営などソフト部分の「よろずや」的な立場で商業ビル運営に取り組む。



か、大道芸なのか、切り口はさまざまですが、キャナルシティでしか体験できない楽しさを追求しているという方向に向かっていきますね。

▼古場 そこから、どのようにつながっていくんですか？

▼望月 自分たちで企画して発信するだけでなく、場所の提供も含めて外部とタイアップするなど、あらゆる形で土地らしさが出せるものを地域と一緒に作り上げていくようにしています。施設自体がまちの魅力のひとつになるようなことをやっていきたいと。

▼古場 イムズもそれに近いかもしれませんが、まちの周辺部にいるイベントやもの作りをしている人たちともしっかりつながっていきたいです。彼らに情報発信のサポートとしてイムズを使ってもら

いたいても考えています。それが少しずつ大きな輪になっていけばいいなと。

▼望月 それって、創業時に理想としていた姿ですよ。そこに戻って、もう一度まちと施設の間を考え直す。本当の意味でのまちづくりをやるべき時が来ているような気がします。

▼古場 まちの魅力がアップしてまち自体の集客力が上がらないと、商業もアートもエンターテインメントもうまく回っていきかないですよ。そのために、エリアを越えてまち全体で福岡を盛り上げていく、福岡に人を呼ぶという構造を作っていくかないと商業施設としての未来も厳しいものになるんじゃないかと思っています。

▼望月 そうですね。



望月未和

福岡地所(株)入社後、キャナルシティ博多やマリノアシティ福岡、リバーウォーク北九州の販促・広報を中心とした業務を経て2011年より企業広報の担当(現職)。



緻密な線と大胆な面で作られた複数の層の構成が特徴的。上は作品「Matrix」。

柿川 健太 イラストレーター

Kakikawa Kenta

1981年福岡県生まれ。黒色のペンとマーカーを使い、動物や植物など自然にあるものと、建築物や機械など人工的なもの、それと記号や模様を組み合わせることで生まれる、独創的な作品を制作しています。2006年、JDN calendar Design Award 2007にて優秀賞を受賞。2008年、digeoutオーディションを通過。これまで、NIKEやカシオなどの企業やファッションブランドとのコラボレーションなど、制作・公開範囲は多岐にわたります。



天神ラポ2014(P4参照)にて、エレベーター内のラッピング、グッズ販売を行います。9/14(日)には店頭でライブペイントを開催。



各会場で作品に出会えます!

Pick up Artists

この秋開催されるアートイベントのなかで、編集部が目にする参加アーティストをご紹介します。

illustrations by Kazuhiko Ikuo

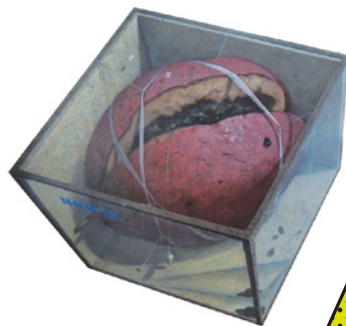
中原 未央 画家

Nakahara Mio

1986年福岡県生まれ。九州産業大学大学院卒業。種がたくさん詰まっている中身を守るよう硬い外皮に包まれている造形のユニークさから「あけび」や「柘榴」などの果実をテーマに描いています。人の人生と同じ、いつか朽ちてなくなっていく様にも重ね合わせており、果実を縛る紐は、人生における緊張感を表現しています。2013年、洋画界の登竜門として知られる昭和会賞を受賞。その後2ヶ月間パリに滞在し学ぶなど、「今はさまざまなものから刺激を受けて進化していきたい」と語る、若手実力派画家です。



「第2回天神アートビエンナーレ」の「新時代アートフロンティア」(P4参照)に出品します。



「包(ほう)Ⅷ」 ミクストメディア / 175×190cm



田中千智 画家

Tanaka Chisato

1980年兵庫県生まれ。多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業。福岡を拠点に制作し、国内外で発表を続けています。国内外のアートフェアにも参加。女性や風景を題材にした絵画作品は静謐ながら情感豊かであり、注目を集めています。



第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014
WATAGATA Arts Network イメージビジュアル

チョン・アルム 画家

Chun Arum

1982年生まれ。慶星大学校美術学科卒業。釜山を拠点に絵画制作を行い、ドイツや日本でも作品を発表。未成熟な若い世代をラフな筆致と力強い色調で描きます。情念的ながらも現代的な画風が特徴です。



EVENT 「WATAGATA福岡釜山アートネットワーク」(P10)として第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014に参加し、二人共同で作品展示。「15歳の少女の未来世界のパノラマ」をイメージした会場構成を予定。



よしながこうたく 絵本作家

Yoshinaga Kotaku

1979年福岡県生まれ。九州産業大学卒業。18歳で作家活動を開始。はじめての絵本『給食番長』(右写真)が人気となり、シリーズ化しました。続刊には『飼育係長』『あいさつ団長』『おそうじ隊長』『ちこく姫』『サムソン先生のダジャレ英語学習帳』(いずれも長崎出版)があり、パワフルな作風で全国区のコミカルなどでも活躍中です。福岡を拠点に、個展をはじめ、絵本の読み聞かせなどさまざまな表現スタイルで活動しています。



怖くて可愛い作風が子どもにも大人にも人気。



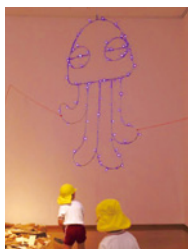
EVENT 第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014(P5参照)で、9/14(日)・10/5(日)に「番長、きたる!読み聞かせ&ライブペイント」を開催します。



オーギカナエ アーティスト

Ohgi Kanae

久留米市在住。武蔵野美術大学短期学部卒業。建築デザインや幼稚園の外壁、美術館子ども用スペースデザイン等空間のインテリアおよびエクステリアのデザインを手がけています。幅広い年代に受け入れられるアート作品を得意とし、ワークショップを多数開催しています。



浜田市子ども美術館「遊び展」(2013)より「銀河ヒッチハイクガイド」。銀河のカケラに見立てた木片を来館者が自由に組み立てて銀河のまちを作る。



EVENT 「はかた駅前通り景観社会実験」(P5参照)にて、子どもたちのワークショップをもとに制作した作品を展示します。



ART EVENT CLIPS

9月1日(月)発売

「九州・沖縄アーティストファイル(KOA)」

九州・沖縄で活躍する注目の若手作家58人と、アートスポットやプロジェクト125軒を紹介する書籍が発行されました。九州・沖縄の旬のアートを知るには欠かせない一冊です!

出版記念イベント

「直観」のジオラマ ～九州・沖縄アーティストファイル断章～

九州・沖縄各県で活躍する若手アーティスト6人による、九州アートシーンの一端を紹介する現代美術展。関連イベントも開催します。

【出品作家】嘉手苅志朗(沖縄/映像)・古賀義浩(福岡/立体)・佐土嶋洋佳(福岡/インスタレーション)・下園詠子(鹿児島/写真)・松野真知(福岡/インスタレーション)・森田加奈子(福岡/絵画)

日時:9月4日(木)～28日(日) ※観覧無料
会場:福岡市美術館・特別展示室B
時間:休館日などの詳細はこちらから

<http://fukuokaarttips.blogspot.jp/2014/07/blog-post.htm>

問い合わせ

Fukuoka Art Tips E-mail: fukuokaarttips3@gmail.com



1,300円(税込)
九州・沖縄アーティスト
ファイル実行委員会
発行

購入について:
<http://fukuokaarttips.blogspot.jp/2014/08/koa.html>

WATAGATA2014 ～FT5+tour+Busan

WATAGATA(ワッタガッタ)とは、韓国語で「行ったり来たり」の意味。WATAGATA福岡釜山アートネットワークは、2010年より、釜山と福岡のアーティストが交流するためのさまざまなプロジェクトを行ってきました。今年は、第5回福岡アジア美術トリエンナーレ(FT5)の出品作品として、福岡と韓国のアーティスト(田中千智、チョン・アルム)による絵画作品展示を中心に、福岡と釜山の演劇関係者が協同して物語を制作し、両都市で上演するほか、11月には釜山へのアートツアーも開催予定です。

【演劇公演】

『バダバダ / 波の少女』

脚本・演出: 中嶋 さと(劇団「14+」、福岡)

原案: キム・ヒジン(トタトガ、釜山)

●福岡: 9/15(あじびホール/ 昼夜2回公演)

●釜山: 11/7、11/8(ザウバダ小劇場)

詳細はホームページにて

<http://watagatainfo.wordpress.com/>



劇団「14+」(福岡)とトタトガ(釜山)の演劇人が協同して制作・公演。

問い合わせ

ART BASE 88
TEL:092-986-4888

E-mail: watagatainfo@gmail.com

福岡県文化会館建設50年記念 とととと? きおく×キロク＝

10月4日(土)～11月24日(月・祝)
月曜休館(ただし10/13、11/3、11/24は開館、10/14、11/4は休館)
10:00～18:00(入場は17:30まで)

福岡県立美術館の前身となる福岡県文化会館ができたのは昭和39年11月3日。今年でちょうど50年。今回の展覧会ではその50年の歴史を振り返りながら、「記録」と「記憶」をキーワードにさまざまな美術作品を紹介しながら、「記録」と「記憶」をキーワードにさまざまな美術作品を紹介しながら、当館収蔵品と6人の地元作家たち(泉山朗士、今岡昌子、酒井咲帆、寺江圭一郎、菱川辰也、森田加奈子)とのコラボレーションにより、愉快で懐深い展示を実現。映画上映会などのイベントもあります。



山本作兵衛

問い合わせ

福岡県立美術館
TEL:092-715-3551
<http://fukuoka-kenbi.jp/>

荒木経惟 左眼ノ恋 Nobuyoshi Araki Love on the Left Eye

10月11日(土)～11月24日(月・祝) 10:00～20:00
※10/21、11/11は休館日

同タイトルの新作シリーズを中心に近年の荒木氏の作品を紹介します。2013年、右眼の視力を失いつつも、これまでと変わることなく精神的に写真を撮り続ける荒木経惟。ボジの右半分を黒く塗りつぶしてプリントされた作品や、左右2枚組で右側だけフォーカスを外して光のハレーションを捉えた作品は、荒木の「いま」の視界を投影したものであり、その左眼に写る鮮明な光景と右眼の曇りある光景の対比は「生と死(エロスとタナトス)」の本質に迫るものと言えるでしょう。



荒木経惟「左眼ノ恋」2014年
RP-Pro クリスタルプリント
©Nobuyoshi Araki /
Courtesy of Taka Ishii Gallery, Tokyo

問い合わせ

三菱地所アルティム
TEL:092-733-2050
<http://artium.jp>

vol.2 Gallery MORIYA



福岡
ギャラリー
さんぽ

扉を開ければ...

ギャラリーモリヤは福岡市中央区赤坂にある通称「けやき通り」に面したビルの一階にあります。今年で満25周年になる現代美術を中心に紹介している企画展です。

これまでギャラリーでは、作品の紹介だけでなく作家を招いてのワークショップやトークイベント、また音楽イベントなど総合芸術を展開してきました。疲弊した現代社会の中で、ギャラリーやアートが果たす役割とはいったい何なのだろうか?と常に模索し続けています。

ギャラリーの扉を開けることで、日々繰り返されるありきたりの日常から自分を解放し、新たな世界へと飛び立たせざるをえないことがあります。作品と対峙し、作品を通してアーティストのある種の才能にふれることで、物事が何か高尙に捉えられたりすることがあります。

そうした行為から、本当の自分を発見し顔がいきいきとしたり、勇気づけられたりする、そんな人たちの姿をずっと見続けてきました。そして、これからは人々の人生のなかに、芸術と共に豊かに生きるきっかけを提供でき、そんな存在であり続けたいと思っています。

プロフィール

森田俊一郎 / オーナー。商社マン時代に訪れたフランスでの体験などを経て芸術の世界に飛び込む。ギャラリーを訪れるさまざまな分野の人たちと共に、文化的付加価値を空間に加える活動「Effet pollen」(花粉現象)を展開中。

店舗情報

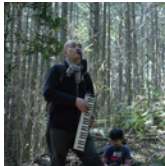
福岡市中央区赤坂3-9-28
ロフティ赤坂2F
13:00～20:00 月休
TEL 092-716-1032
<http://www.g-morita.com/>

糸島国際芸術祭2014 糸島芸農

10月11日(土)12日(日)13日(月・祝)18日(土)19日(日)

自然豊かで移住者も多い糸島市二丈地区で2012年に始まったアートプロジェクト。アーティストをはじめ、農家や歴史家などさまざまな職業の方が共に展開しています。第2回目の今回のテーマは「稲荷」。農業について、その背景となっている歴史や文化をさらに深めていきます。10月の展覧会に向けて、地域の伝承の記録活動や、田んぼの神が住むと言われていた山歩きイベントなどを行ってきました。

●11日(土)はオープニングイベントを開催 ●19日(日)は内山節(哲学者)によるトークイベントを開催 ●期間限定の飲食店やギャラリーツアーなども実施予定



会場付近の風景

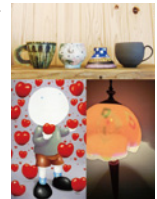
問い合わせ

糸島国際芸術祭「糸島芸農」実行委員会事務局
http://www.ito-artsfarm.com/
E-mail: info@ito-artsfarm.com

FUKUOKA ARTWALK 「アートをたずねる月」2014

10月1日(水)~31日(金)

福岡市内・郊外の店舗やアーティストが多数参加し、期間中さまざまなアートイベント巡りを楽しめる毎年恒例のイベント。11年目の今年は、「アートとくらす」がテーマ。約100店が参加し、「アートな空間」「アートをかう」「アートを創る」「アートを飾る」という小テーマごとに生活のなかのアートを特集します。部屋のリノベーションや賃貸住宅でも壁を傷めずに絵を飾る方法を伝えるセミナーなど、イベントも開催予定。最新情報はホームページでお知らせします。



問い合わせ

FUKUOKA ARTWALK
「アートをたずねる月」事務局
TEL:092-751-9128
http://www.fukuoka-artwalk.com

MIZOE ART GALLERY

田浦哲也展

10月11日(土)~26日(日)

豊潤な想像力と独自のデフォルメを駆使したユニークな画風を確立。絵画とは「生きるための重要なファクター」大小約35点の新作を肅々と世に問います。



「FACE」

福岡市地行浜1-2-5
10:00~19:00

TEL: 092-738-5655

アートスペース猿

近藤裕史彫刻展

10月13日(月・祝)~10月26日(日)

写実的な人物彫刻による展示。これまで同様、今回も作者本人の似姿をモチーフにした彫像を制作、発表します。18日(土)19:00「近藤裕史と原田伸雄(舞踏家)トークセッション」開催。



福岡市中央区天神3-4-14

TEL:092-781-7597

HEIS Gallery

手嶋大輔×Dong-hoon Kwak
立体二人展 一木・ガラス

9月26日(金)~10月12日(日)

伝統技法を踏まえつつ独自の表現を行う手嶋の新作木彫など15点、ブルーを多彩に使う郭の新作ガラス彫刻10点を展示。木とガラス、それぞれの素材に辿り着いた若手両作家の今にふれられます。



Dong-hoon Kwak
26x35x8 cm

福岡市中央区赤坂3-4-31

TEL:092-712-7200

博多座

「笑う門には福来たる」
~女興行師 吉本せい~

11月6日(木)~28日(金)

稀代の喜劇女優・藤山直美がまたも博多座に登場!お笑い王国吉本興業の創始者・吉本せいの波乱の生涯を演じます。



福岡市博多区下川端町2-1

TEL: 092-263-5555

アクロス福岡

アクロス・クラシックふえすた
2014

10月4日(土)・5日(日)

「アクロス・クラシックふえすた」は、クラシック音楽があふれる遊園地。2日間に渡って、館内でたくさんの無料イベントを開催します。(一部有料)



アクロス ふえすたの開催です。
新しいアクロス劇場へようこそ!!

福岡市中央区天神1-1-1

TEL:092-725-9112

(アクロス福岡チケットセンター)

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

アジアフォーカス・アーカイヴズ

9月3日(水)~27日(土)※

過去にアジアフォーカス・福岡国際映画祭で上映され、総合図書館が保存している作品の特集。『つぎせぬ想い』(93年香港)『301・302』(95年韓国)など15作品を上映。



つぎせぬ想い

福岡市早良区百道浜3-7-1 ※休館日・休映日除く

TEL:092-852-0600

耳寄り情報

秋のアートイベントの情報はここで!

アートイベント情報の発信地が登場

この秋福岡で開催されるさまざまなアートイベント情報をまとめて発信する「まちなかアートギャラリー福岡」では、期間中のアートイベントのチラシやパンフレットを設置し、アーティストなどと共にイベントを行うスペースを設置する予定です。開設期間やイベント日程など詳細は左記サイトでチェックしてください。



「まちなかアートギャラリー福岡2014」アートインフォメーション(仮)
三越ライオン広場観光インフォメーションセンター隣り TEL:092-711-4471

「ミュージアムポータルサイト」にも注目!

秋のアート情報が満載!
「まちなかアートギャラリー福岡」



http://f-museum.city.fukuoka.lg.jp/

おしゃべりな 学芸員

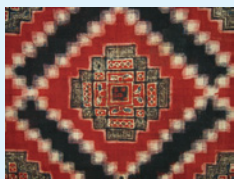


福岡市美術館 岩永悦子

インド更紗に導かれて…

「更紗の時代」という展覧会を準備しています。そもそもの発端は十年前、福岡市美術館に、紺と更紗の技法が併用されたインド更紗の完成品のオフアールが舞い込みました。いまままで断片しか知られておらず、小片ですら珍重されてきた布が、幅約1m、長さ約5mを超える完全な形で出現したのです。まさに晴天の霹靂、空前絶後の存在でした。

紺の技法と、手描きで複雑な文様を表す更紗の技法のコンビネーションの効果もさることながら、茜で染めた「血のような深紅」の魅力にとりつかれました。「アカネ」には「血」という漢字も用いられると知って、思わず納得。大航海時代からの約五百年は、世界中がその技術を羨望し、インド更紗に追い着き、追い越せと努力を続けた時代でした。その五百年を「更紗の時代」と呼んでみたいと思えます。このインド更紗のおかげで、いろんなところに旅をし、いろんな人、いろんな更紗に巡りあいました。今も展覧会の出品作品を集めているのは、わたしではなく、この布ではないかと思うぐらいです。このインド更紗がこの世に生を受けて、約四百年。仲間福岡に集えと呼びかけてくれていて、更紗の名品が集います。ぜひ、会いにいらしてください。



更紗の時代

10月11日(土)～11月24日(月・祝)
http://www.agesofsarasa.com
インド・コロマナルコースト 16・17c
福岡市美術館 546x96.9cm

福岡市博物館 <http://museum.city.fukuoka.jp/>

特別展

「九州仏～1300年の祈りとかたち～」

10月12日(日)～11月30日(日)

九州は日本における大陸との接点であり、他にはみられない独自の仏教文化を育み、その時々個性豊かな仏像を生み出してきました。普段は非公開の「秘仏」など約100点を展示、奈良や京都の仏像とは違った「九州仏」の魅力を紹介します。

締切 10月10日(金)



木造兜跋毘沙門天立像 福岡・観音寺

招待券

5組
10名様

九州国立博物館 <http://www.kyuhaku.jp/>

特別展

「台北 國立故宮博物院—神品至宝—」

10月7日(火)～11月30日(日)

中国の歴代にわたる優れた70万件近くの文物を収蔵する世界的な博物館、台北 國立故宮博物院的海外展が日本初上陸! 話題の「肉形石」をはじめとする厳選された110件の「神品」は、絶対に見逃せません。

※10月27日(月)、11月4日(火)、10日(月)、17日(月)は休館

締切 10月10日(金)



肉形石 10月7日～20日 清時代・18～19世紀 國立故宮博物院蔵

招待券

5組
10名様

福岡市美術館 <http://www.fukuoka-art-museum.jp/>

更紗の時代

10月11日(土)～11月24日(月・祝)

インド更紗は大航海時代に流通した商品のなかでも、色鮮やかさ、文様の魅力で、世界的に広く受け入れられ、産業革命の発端となりました。本展では、日本やアジア、ヨーロッパが、インド更紗をどのように受容してきたかをたどります。

締切 10月10日(金)



クリシュナ物語図更紗掛布 インド 18c 福岡市美術館 197x127.1cm

招待券

5組
10名様

福岡アジア美術館 <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

第5回福岡アジア美術
トリエンナーレ2014

9月6日(土)～11月30日(日)

アジアの最新美術動向を紹介する国際美術展。「未来世界のパノラマ」をテーマに、アジア21ヶ国・地域から46人・組の美術作家を紹介します。参加作家による滞在制作やワークショップなど多彩な交流プログラムもお楽しみに!

締切 10月10日(金)



招待券

5組
10名様

【編集後記】

今号の取材で福岡のまちをよく歩きました。けやき通り、博多駅周辺、天神、大名…。あらためて見ると、気づかなかった景色や面白い店や人がたくさん! 今秋はアート鑑賞をきっかけに、福岡のまちの新たな魅力も見つかるかもしれません。

(内田)



読者プレゼント!

下記を明記のうえ、郵便ハガキ、FAX、またはメールにてご応募ください。

- ① ご希望のプレゼントの美術館・博物館名
- ② 住所・氏名・年齢・電話番号
- ③ 「wa」をした場所
- ④ よかったページ
- ⑤ 興味がなかったページ
- ⑥ 本誌以外で、アートに関する情報をどこから得ていますか
- ⑦ 本誌や財団に期待すること、ご意見など

福岡市文化芸術振興財団 機関誌「wa」編集部
応募先 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10福岡県消防会館6F
Fax: 092-263-6259 Email: pr-co@ffac.or.jp

セリフからはじめる演劇の話

「世界って、たったふたつの、 直径2センチとか3センチとかの、 薄っぺらい膜でできてたんだな」

ぼくが初めて書いた『妄膜剥離』という戯曲に出てくるセリフです。「網膜剥離」と診断されてしまったボクサーが主人公の物語。

彼は、これまでフツウに見えていた（そしてこれからもフツウに見えつつけるだろうと素朴に信じていた）目の前の世界が、もろく剥がれていくという体験をして、「このまま俺、網膜とか剥がれたら、べろんとかいって剥がれたら、（世界が）ぜんぶなくなるんだな」と実感する。そんな話です。

自分の外側に広がっていると信じていた世界が、じつは自分の目ん玉の奥の、薄っぺらな2枚の網膜でできていた、という気づきというか、発見って、考えてみると演劇体験そのものじゃないでしょうか。いや演劇だけじゃなくて、大きくいえば芸術って、そういう発見のためにあるんじゃないか。

だからこそ芸術は、日常とか生活とかとは、どこかで切り離されてなきゃならない。

たとえば映画館で映画が始まる前に客席が真っ暗になるのはきつとそのためだし、劇場やサーカステントのなかで何が行われているか、道ばた歩く通行人からは見えない理由もそのためだ。美術館でも博物館でも受付でチケット切ってもらわなきゃ入れないのもそのためだし、クラシックコンサートに普段着じゃ行けないのもそのためだ。ミュージカルやオペラのチケットがバカ高いのもそのためだ。

逆の例もある。たとえばテレビは、生活にみごとにとけ込んでしまったから、もはや芸術体験としての力を失ってしまった。「最近のテレビは面白くない」のは当たり前前で、もしみんなが生活の手を止めて見るようになれば、テレビだって面白いんだ、きっと。

ビだって面白いんだ、きっと。

演劇は、目の前の役者が全力で嘘をつく。そこには世界を平気で「ある」と言う。そこで発される声も、ことばも、汗も息づかいも、ぜんぶがそこに「ない」嘘の世界のために存在する。そして、べろんと幕が下りると、観客は目の前の世界がもろく剥がれるという体験をする。

そのときの「世界の喪失感」こそ、演劇体験のもっとも濃くて面白いところだと思う。だからぼくは、いつもそこをめぐらして戯曲を書く。

川津 羊太郎

(かわづ ようたろう)
1976年熊本県生まれ。2010年に初めて執筆した戯曲『妄膜剥離』が第3回九州戯曲賞最優秀候補に選ばれる。2011年、『白霧狂ひつ、閻裂きつ。』で泉鏡花記念金沢戯曲大賞・佳作受賞。さらに2012年、『憑依』で第4回九州戯曲賞大賞を受賞。己の妄想を具現化すべく、現在も鋭意執筆中。



© Kohei Kondo

Illustration: Kohei Kondo

九州戯曲賞とは？
九州を拠点とする劇作家による作品を顕彰するため2009年創設。
最終審査員は九州にゆかりの深い著名な劇作家が務める。

FFAC INFORMATION

各イベント情報の問い合わせ先

TEL: 092-263-6265 FAX: 092-263-6259 E-mail: pr-co@ffac.or.jp

最新情報は財団ホームページへ <http://www.ffac.or.jp>

講座

アートマネジメントセミナー2014

「芸術祭と新しくかかわる」

社会と文化芸術をつなぐ、アートマネージャーやアートマネジメントに興味のある方が、よりよい活動をするための知識を身につけるプログラムです。全国で多くのアートプロジェクトが展開されるなか、今年は九州でもさまざまな芸術祭が開催されます。芸術祭やアートプロジェクトを「動かす側」にいる方たちを招き、他地域と地元におけるマネジメント現場から学びます。

日時: 10月17日(金)・18日(土)
会場: 福岡市赤煉瓦文化館(中央区天神)
料金: 3講座通し3,000円 / 1講座のみ1,000円
ゲスト: 宮本初音(福岡)、森司(東京)、山出淳也(大分)ほか
※詳細は決まり次第、財団HPでお知らせします。

アート

平成26年度エイブル・アート事業

「Lifemap(タイトル未定)」

障がいのある人の芸術活動を通し、社会におけるさまざまな価値観を捉え直すことを目的とした企画「Lifemap」。昨年に引き続き、今年も公募で集まった障がいのあるアーティストと共にパフォーマンス制作・発表いたします。お見逃しなく!



撮影: 泉山朗士

日時: 12月6日(土)・7日(日)
会場: ゆめアール大橋(南区大橋)
※詳細は決まり次第、財団HPでお知らせします。
お問い合わせ: Lifemap事務局(担当: 樋口 / 船津丸)
TEL: 092-562-8684
FAX: 092-562-8688
E-mail: marulab@maruworks.org

芸術祭

第51回福岡市民芸術祭

福岡市民芸術祭は、アートがまちにあふれる「芸術のお祭り」です。昭和39年に福岡市民会館の開館を機に始まり、以後、福岡の文化振興に大きな役割を果たしてきました。この50年で市民のみなさまの自発的な活動が飛躍的に増え、この福岡の地に芸術文化がしっかりと根付いてきました。51回目を迎える今年は、「つながる」をテーマとし、新たな試みを加えながら、さらに面白く楽しく進化しています。



開催期間: 9月28日(日)～12月7日(日)

会場: 福岡市内各所

※詳しくは公式ホームページ(<http://fcaf.jp/>)をご覧ください。



オープニングイベント開催

各プログラム主催者と市民の方が一体となって芸術祭をスタートさせる市民参加型のオープニングイベント。ぜひ会場にお越しいただき、約2ヶ月に及ぶ芸術祭と一緒に盛り上げていきましょう!

日時: 9月26日(金)
12:00～19:00(18:00～オープニングセレモニー)
会場: ソラリアプラザ1Fゼファ

ダンス

FFAC PLUS+ 山田うん ソロダンスライブ

世界で活躍する振付家/ダンサー 山田うんの大人気企画がついに博多に初上陸! 肉体と魂と人生の経験とiPodを持って、身一つで踊る即興ダンス&トークは必見です!



撮影: 塚田洋一

日時: 10月14日(火)・15日(水) 19:30
会場: アクロス福岡 円形ホール
料金: 全席自由 一般2,500円 / 学生2,000円
お問い合わせ: Co.山田うん
TEL: 080-9640-5361

助成

FFACステップアップ助成プログラム
報告会・説明会

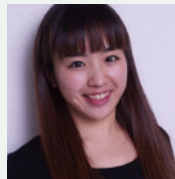
福岡で芸術分野のプロを目指し、芸術分野の発展・普及に寄与する活動について経費の一部を交付し、その活動を支援する『FFACステップアップ助成プログラム』。平成26年度上半期に助成を受けた事業の報告会と、次年度の説明会を行います。

日時：11月8日(土)
会場：福岡市文化芸術振興財団 7F会議室
料金：無料
参加申込：参加希望の方は、11月7日(金)17:00までに申込

ダンス

踊りに行くぜ!!Ⅱ(セカンド) vol.5 福岡公演
田中美沙子振付作品 出演者募集中

“ダンス作品をつくるプロジェクト”として2010年度から生まれ変わり、リスタートした「踊りに行くぜ!!」Ⅱ。今回の福岡公演では、「B/リージョナルダンス」プログラムにおいて、BATIKのメンバーでもある田中美沙子さんが福岡の地元パフォーマーと作品を作ります。作品は、2月の本公演(イムズホール)にて上演。現在、この作品に出演される方を募集しています。興味のある方は、ぜひご応募ください!



撮影：高木伸俊

<ワークショップオーディション>

日時：10月7日(火)19:00~22:00
会場：ぼんブラザホール
応募条件：性別・経験不問。18歳~50歳ぐらいまでで、クリエイション・本番に参加可能な方。
応募締切：9月29日(月)必着
※オーディションの詳細・応募方法は財団HPへ。

<本公演概要>

日時：2015年2月28日
会場：イムズホール
お問い合わせ：アートマネジメントセンター福岡(AMCF) 担当：王丸
TEL:092-752-8880 E-mail:ohmaru@amcf.jp

マーケット

アトリエ バックナンバー100円市

閲覧用に提供していた文化芸術情報誌を大放し! 今回は2013年4月~2014年3月のバックナンバーを1冊100円で販売します。この機会をお見逃しなく!

日時：9月27日(土)~28日(日)10:00~19:30
会場：文化芸術情報館アトリエ
(博多区下川端町3-1 福岡アジア美術館7階)
料金：1冊100円(入場無料)
※お持ち帰り用の袋は各自で用意ください。

PICK UP GOODS

第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014
公式グッズ

共にA5サイズ

ハンコ制作：
キタカゼパンチ

【1】クリアファイル/メインビジュアルの作品など4作品がクリアファイルに! A4(2種)324円 / A5(2種)270円 【2】バッグ/期間中、10作品のハンコを自由に押してオリジナルバッグを作れます。【3】缶バッジ/胸元や小物のデコレーションに...おひとついかがですか。全46種 各120円
【製作】(公財)福岡市文化芸術振興財団
【販売場所】福岡アジア美術館ミュージアムショップ「uchu-do space」

ありがとうございました 皆さまのご支援で文化芸術の振興を!

平成25年度、下記の方からご寄付をいただきました。

- 株式会社 九電工様
- 吉川一美様

福岡市文化芸術振興財団では、さらなる事業の充実を図るため、常時、みなさまからのご寄付を募集しています。

< 寄附金の受付・お問い合わせ >
総務課

TEL:092-263-6264 FAX:092-263-6259
http://www.ffac.or.jp

What about the Provenance?

あふよっ 気になる 足跡の履歴

2014年10月11日(土)～
2015年1月12日(月・祝)

コレクション展示

福岡から久留米まで電車で約30分!
※西鉄・特急、JR・快速ご利用の場合

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日：月曜日(10/13, 11/3, 24は開館)、年末年始(12/28-1/3)

入館料：一般500(400)円、シニア300(200)円、大高生300(200)円、中学生以下無料

*シニアは65歳以上 * ()内は15名以上の団体料金

*前売券は、チケットぴあ、ローソンチケット取り扱い各店にて300円で販売(Pコード765-982、Lコード82477)

主催：石橋財団石橋美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送

後援：久留米市、公益財団法人久留米文化振興会

〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 TEL 0942-39-1131

URL <http://www.ishibashi-museum.gr.jp>



石橋美術館

公益財団法人 石橋財団

ISHIBASHI MUSEUM OF ART
ISHIBASHI FOUNDATION

What about the Provenance?

あつちの
 気になる
 足跡の履歴

2014年10月11日(土)～
 2015年1月12日(月・祝)

コレクション展示

福岡から久留米まで電車で約30分!
 ※西鉄・特急、JR・快速ご利用の場合

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日：月曜日(10/13, 11/3, 24は開館)、年末年始(12/28-1/3)

入館料：一般500(400)円、シニア300(200)円、大高生300(200)円、中学生以下無料

*シニアは65歳以上 *()内は15名以上の団体料金

*前売券は、チケットぴあ、ローソンチケット取り扱い各店にて300円で販売(Pコード765-982、Lコード82477)

主催：石橋財団石橋美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送

後援：久留米市、公益財団法人久留米文化振興会

〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 TEL 0942-39-1131

URL <http://www.ishibashi-museum.gr.jp>



石橋美術館

公益財団法人 石橋財団

ISHIBASHI MUSEUM OF ART
 ISHIBASHI FOUNDATION